

2013年沖縄週間／沖縄の旅 参加のごあんない

6月21日（金）～24日（月）

ぬち

たから

命どう宝 ～ 心で理解する ～

『あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった。こうして、彼らは目で見ることなく、耳で聞くことなく、心で理解せず、悔い改めない。わたしは彼らをいやさない。』 マタイ 13:14, 15

2013年1月27日、東京・日比谷野外音楽堂に4,000人が集まり、オスプレイ配備撤回を求める集会が行なわれ、沖縄では新聞に1面トップ報道されましたが、全国紙では朝日と東京が1面、他社は社会面、読売は11行だったと琉球新報にありました。

沖縄県民は、本土との間に大きな温度差を感じています。大きな100個のマス目を想像してみてください。100のマス目が日本の国土です。その中のたった1マスに75%の米軍基地があるのです。残り99マスは真っ白です。国土のたった0.6%しかない沖縄県に、米軍基地の約75%を集中させ、過重な負担を負わせながら、無視、無関心、知らんぷりをしているように見えます。森本敏前防衛相は、普天間移設の米軍の代替え基地建设について、「軍事的には沖縄でなくてもよいが、政治的には沖縄が最適である」、と離任直前に語りました。日米安保は必要だとしながら、自分の所に基地は置くなという発想には、身勝手と悲しみを感ずります。これは、不平等、不公平、差別です。

尖閣、竹島、北方4島などの領土問題、北朝鮮の核実験、ミサイル発射など、隣国との間に軋轢があり、危険な事態に陥る恐れがあるから、日米安保は必要との声が強く大きくなりました。中国との間で船舶の衝突、海外で日本人が襲撃など、海外での事件、事故で日本人救出には武器が必要だ、自衛隊が武器を持って戦うべきだ、という人たちも多くなりました。

安倍首相は、夏の参議院選挙後、日本国憲法、第9章第96条「憲法の改正」の項目を改憲すると述べました。その後、第2章第9条「戦争の放棄」の改憲へと進みたいようです。このままいけば、戦争をする国、人殺しの出来る国となります。戦争になれば、最初に標的となるのは基地ですが、多くの人々が泣き、悲しみ、苦しむこととなります。

今、問われていることは、日本は戦争が出来る国になった方が良いのか、ということです。もちろん多くの方は、「戦争は嫌だ」とお答になると思います。でも「戦争は嫌」、「人殺しは罪だ」と言いながら、「やられたらやり返すべき」だ、と思っていないでしょうか。これは、戦争の実態をテレビなどで見ていながら、「聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。」ことであり、「耳で聞くことなく、心で理解せず、悔い改めない。」ことです。キリストの十字架を無にすることです。沖縄から日米安保と本土がよく見えます。日本の現実を目で見て、耳で聞いて、心で感じて欲しいと思います。沖縄と本土にある温度差に気づいてください。自分さえ良ければ、安心、安全なら良しとする自己中心の考えが、罪です。罪が差別や偏見を生み、人々を痛み、苦しみの中に陥らせています。悔い改め、いやされるには、どうすればよいのでしょうか。共に主のみ心を問い、平和の道、救いの道を探してみませんか。

(日本聖公会沖縄教区 司祭 ダビデ 上原榮正)

※2010年第58(定期)総会にて、これまでに続いて「沖縄週間」の継続が決議されました。

これは、日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に関心を寄せ、私たち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とするものです。

沖縄教区と日本聖公会 正義と平和委員会は、この週間にあわせ、沖縄の歴史及び現在を学ぶ旅を行い、全国の皆さんをお誘いしています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしています。



沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、私たちが平和の器にしてください。
嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、
敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。
私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中に癒しを、
疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。
この沖縄週間を通して私たちを新たにし、
あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。
私たちの主イエス・キリストのいつしみによって、
このお祈りをお献げいたします。アーメン



主催 日本聖公会 沖縄教区
日本聖公会 正義と平和委員会

参加のしおり

* 航空券手配について *

1日目の6月21日（金）の宿泊と共に、市販の「ホテルパック」で手配されること
をお勧めします（航空券とホテルを別にとるよりも安く購入できます）。各地発及び帰りの沖縄発の時間はできる限りプログラムに支障のないようにご設定ください。

* 宿泊について *

- ・ 1日目6月21日の宿泊先は、翌22日のプログラム「沖縄に触れる②」が小禄聖マタイ教会出発ですので、那覇市内で、なるべく小禄聖マタイ教会に近いホテル（同封地図参照）をご手配ください。
（23日は教区「慰霊の日」礼拝後、夜、三原聖ペテロ聖パウロ教会での交流会をし、ホテルへ移動となります。24日は9時に三原聖ペテロ聖パウロ教会で分かち合いを開始します。参加者には後日詳細をお知らせします。）
- ・ 費用を抑えたい方は21日、小禄聖マタイ教会への宿泊等も手配できます。
- ・ 2日目 22日（教会分宿）の宿泊先は基本的には当方で手配します。
- ・ 3日目 23日の宿泊は当方で三原聖ペテロ聖パウロ教会近くのホテルを手配します。

* 費用（概算） *

- ・ 21日 ホテルパック（各自）
- ・ 22日 教会分宿 3,000円
- ・ 23日 ホテル 6,000円
- ・ フィールドトリップ参加費 5,000円（精算の上、追加徴収があるかもしれません。）
- ・ 食事代（21日夕・22日昼・23日夕・24日昼）
2,000円程度

合計金額 各地からのホテルパック + 16,000円程度

* 集合時間・場所 *

12時30分までに 那覇空港1階「到着口B」 付近へ。係の者が立っています。
各自昼食を済ませてお集まりください。集合の後、バスに乗り、フィールドトリップに出発しますので、くれぐれも時間厳守でお願いします。

* スタッフ *

- ・ 沖縄教区：司祭金 汀洙、司祭高良孝太郎、富本盛彦、司祭上原榮正、並里 厚、
司祭岩佐直人、聖職候補生並里輝枝、聖職候補生西平妙子、高良孝子
- ・ 正義と平和委員会：司祭磯 晴久、中村真理、佐藤由佳、司祭柴本孝夫

* 締め切り * 5月 6日（月）

〒162-0805 新宿区矢来町65番地 日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛
電話03（5228）3171 FAX 03（5228）3175

2013年沖縄週間/沖縄の旅 プログラム

6月21日（金）～24日（月）

今回は、「命どう宝 ～心で理解する～」というテーマのもとプログラムを構成しています。
以下、トピックを記します。

- 21日：集合しフィールドトリップ「沖縄に触れる①」。沖縄教区センターにて受付。
開会礼拝。ドキュメンタリー『標的の村』鑑賞とディスカッション
- 22日：小禄聖マタイ教会よりバスで出発。南部戦跡（平和の礎 平和祈念資料館、摩文仁の丘）へ。
小グループに分かれて過ごします。夕方、分宿のため各教会へ。
- 23日：分宿先教会の主日礼拝に参加、午後、沖縄教区行事「慰霊の日」礼拝に参加。夕、交流会。
当方手配のホテルへ
- 24日：三原聖ペテロ聖パウロ教会での分かち合い、平和への取り組み・行動の今後について
分かち合い。昼食後、閉会礼拝。13時解散。

日 時＼	1日目	2日目	3日目	4日目
	6月21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)
8:00		9:00 フィールドトリップ 「沖縄に触れる②」 本当南部へ。 沖縄教区信徒と共に 巡り、語り合う。	朝食 各教会にて	朝食 ホテル 移動
9:00			各宿泊教会の礼拝 に出席	三原聖ペテロ聖パウロ 教会にて分かち合い 今後の平和への取り 組み・行動について
10:00				
11:00				閉会礼拝
12:00	12:30 集合(那覇空港) 13:00 出発 フィールドトリップ 「沖縄に触れる①」 那覇市内 国際通り近辺散策	平和の礎 平和祈念資料館 摩文仁の丘	昼 食	昼 食
13:00		昼 食 午前の続き	移 動	解 散
14:00		教会分宿先へ移動		
15:00		沖縄教区行事 「慰霊の日」礼拝参加 会場：北谷諸魂教会		
16:00				
17:00	受 付(沖縄教区センター) 開会礼拝	各教会に分宿	移 動 (分乗し、 三原聖ペテロ聖パウロ教会へ)	
18:00	オリエンテーション・夕食			
19:00	ドキュメンタリー 『標的の村』鑑賞と ディスカッション		三原聖ペテロ 聖パウロ教会にて 交流会	
20:00				
21:00	就寝前の祈り		ホテルへ移動	
宿泊	各ホテル	各教会に分宿	当方で手配します。	